

ス 121

編集/発行 公益社団法人食品容器環境美化協会 〒108-0023 東京都港区芝浦2-15-16 田町K・Sビル6階 TEL 03-5439-5121 FAX 03-5476-2883 HP http://www.kankyobika.or.jp

地域のために、地域とともに行う美化活動を表彰

「第13回環境美化教育優良校等表彰式」が開催されました

2月1日(金)、「浅草ビューホテル」(東京台東区)4階「飛翔の間」において「第13回環境美化 教育優良校等表彰式」が開催されました。13回目を数える今年は天候にも恵まれ、表彰校の児童 生徒および教職員、地域代表を始め、行政や飲料団体関係者、各地域の報道機関等が多数参加し、 会場は厳かな中にも温かい祝福ムードに包まれました。

この表彰は、環境美化教育に独創的、継続的かつ熱心に取り組み、「公共の場所の美化」または 「飲料あき容器等のリサイクル」を実践し、地域の環境美化に大きく寄与している小・中学校等を 選出し表彰するものです。昨年度までは、小学校部門、中学校の部門ごとに受賞校を決定しており ましたが、環境美化活動をより包括的かつ総合的にとらえるため、今年度から部門を区別せず表彰 することといたしました。

本年度は、41都道府県から推薦を受けた小・中学校41校の中から、審査会による厳正な審査 を経て、最優秀賞4校が選定され、表彰の運びとなりました。なお、優秀校6校、優良校31校の 表彰校についてはP9に掲載されています。



■ 表彰式・懇親会レポート

表彰式では冒頭、あいさつに立った公益社団 法人食品容器環境美化協会の末吉紀雄会長が表 彰事業の歴史や意義などを述べた後、賞状授与 に先立ち、表彰校の活動内容がスクリーンで紹 介されました。各校の児童生徒が自主的に地域 住民と連携して環境美化活動に取り組む様子が 動画やスライドを通して披露されると、参加者 は熱心に画面を見つめ耳を傾けていました。

賞状・副賞授与に続いて、審査委員長の小澤 紀美子・東海大学教授が登壇し、審査のポイン トや、地域とともに環境活動に取り組むことの 重要性を強調、さらには「4校の先駆的な活動 を日本全体に普及啓発させていく足掛かりがで きた」と評価しました。









また、来賓として出席された文部科学省の美 濃亮氏、農林水産省の鵜狩房浩氏、環境省の永 島徹也氏からは、「環境教育や地域と取り組む 美化活動を通じて児童生徒が成長することを期 待しています」と祝辞を賜りました。

表彰式典後は、東京スカイツリーが一望できる25階「大輪の間」に場所を移し、なごやかに懇談会が行われました。当協会の田中誠専務理事のあいさつの後、懇談会がスタートすると、参加者の各テーブルでは食事や飲み物を囲みながら活発な情報交換がなされ盛り上がりを見せていました。

途中、受賞校の児童生徒からスライドを使った活動紹介があり、中には衣装や小道具を使って寸劇で披露する学校も登場し、会場を大いに沸かせました。

■ 出席者のスピーチ(要旨)

~感動を共有する仲間を増やす発信を~

審查委員長 東海大学 東京学芸大学名誉教授 小澤 紀美子氏



いま、地域住民とともに児童生徒が地域で学ぶスタイルの学習が難しくなってきています。しかし、環境に関していえば、地域の方々といっしょに体験し、そこで学んだことを広く情報発信していきながら地域と絆を深めていくことがなによりも大切です。そういう意味では、環境は教科書で学ぶことが難しい分野ですが、今回受賞された4校はしっかりと活動されていて、住民と交流を図り、地域に見事な広がりをみせていました。ここで重要なのは、活動を通じて単に自分自身の価値観を形成するだけではなく、感動を共感する仲間を増やしていくよう発信していくことです。どんどんコミュニケーション能力を磨いて、みなさんが中心となってこうした活動を今後日本全体に普及させていくことを期待しています。

~環境教育を通して成長することに期待~

文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 課長補佐 美濃 亮様

環境教育は、人類の将来の生存と繁栄にとって重要で、次世代を担う子どもたちが環境を守るための実践や行動をできるようにしていくことが、学校教育においても喫緊の課題となっています。文部科学省では、新しい学習指導要領において、学校における環境教育の推進を果たすために社会科や理科、家庭科など関連の深い教科を中心に環境教育にかかわる内容について充実を図りました。また、環境教育に関する優れた実践を促し、教員を対象とした講習会の開催などさまざまな取り組みを実施しているところです。受賞されたみなさんには、限りある資源やエネルギーを有効に活用することなどを通して自分たちが責任を持って環境を守っていくんだという気持ちを持って、心豊かにたくましく成長されることを願っております。



~美しい日本をつくる旗振り役に~

農林水産省 食料産業局 食品製造卸売課 課長補佐 鵜狩 房浩様

いずれの受賞校も地域と連携しながら環境活動に取り組まれており、感謝と敬意を表する次第です。この取り組みが日本全体に広まり、ひいては美しい日本をつくり上げることにつながると思いますので、皆様には継続して活動を進めてくだされば我々としてもうれしい限りです。農林水産省では、農業と林業、水産業発展のために様々な事業を行っているところですが、今回のように環境をテーマにした取り組みも企業と連携しながら進めています。たとえば、昔は散乱していたペットボトルが、今では企業が中心となってリサイクル事業を展開していますが、国も一体的に推進していくべき課題と考えています。同様に、皆さんの活動を少しでもサポートできればと思っていますので、引き続き地域の環境活動にご尽力下さいますようお願い申し上げます。



~地域への愛情を育む美化活動~

環境省 大臣官房 廃棄物リサイクル対策部企画課 リサイクル推進室 室長 永島 徹也様



今、私の所属するところでは、現在あるリサイクル法を運用したり、新しい仕組みを企画したり、さらには日本のリサイクルやゴミ処理制度を、人口が増加しゴミが増えているアジアなどの海外に広める事業を進めています。その過程でよく聞かれるのが、どうしたら日本のようにゴミ分別が徹底できるかということです。非常に難しい質問ですが、今回受賞された皆さんの活動を見させてもらい、答えがはっきりしました。ゴミ分別とは単なるゴミを分けるだけではなく、自然環境を守りたいという地域への愛情が湧き上がって活動につながるものであることを実感した次第です。今後海外に日本の制度を移していく時には、気持ちを育む環境教育をセットにすることが重要だと思いました。こうした気持ちを大事にしてこれからも優れた活動を続けて下さい。

■ 最優秀校の活動紹介および出席者インタビュー

住民・企業・行政との協働体験学習で芽生えた郷土愛

文部科学大臣賞 広島県 福山市立今津小学校

育13 回 環境美化教育優良校等表彰 最優秀校





地域住民や企業、行政と「協働」で体験型の環境 学習を行っている。川や樹木に囲まれた豊かな自然 環境を守るために、児童たちは住民と美化活動に取 り組み、回収した不用品を細かく分類・分析し、3R やゴミ処理の知識を深めている。この取り組みを きっかけに、児童の発案で、今津町のシンボルであ る「本郷川」にホタルを復活させるプロジェクトが スタートした。地域の専門家からホタルの飼育方法 を学びながら、校内で育てたホタルを本郷川に放 流。ホタルの生態を知って愛着が芽生えた児童たち は、環境と平和を守るキャラクター「ホタマン」や キャラクターソングを誕生させた。地域の行事で は、美化活動やホタル学習で学んだことを手づくり 大型絵本などで情報発信しながら、子どもからお年 寄りまで世代を超えた交流を深めている。福山市の 環境啓発課が働きかけ、広島県も応援してきた協働 の学校づくりが、児童の熱い思いを育て、地域の資 源を活かした街づくりに発展している。

広島県 福山市立今津小学校のみなさん

「ひとつひとつ積み重ねてきたことが受賞につながってとても嬉しい。ただし、この活動はあくまでも地域が環境問題に取り組んでいたところに我々が参画したという歴史があるので、地域の皆さんと賞を分かち合いたい」



広島県や地域関係者のみなさんおよび広島地方連絡会議員 サッポロビール社 林 鉄也様 (写真後列右)

「福山市は3年連続の最優秀賞受賞ということで、街全体がそうした環境美化の意識が高い雰囲気がある中、一つひとつ着実に地域の特色を生かしながら連携して取り組みを進めていったことが今回の受賞につながったと思う。我々としても、引き続き学校に缶回収ボックスを提供していきたい」



地域のために行う美化活動が生徒のやる気や自信を生む

農林水産大臣賞 東京都 大田区立大森第六中学校

都内有数の景勝地として知られる洗足池が隣接し、 周辺は風致地区に指定されている同校。その自然環境 を守るべく、自主的に地域の美化活動を行っている。 授業開始前の朝20分間、約120名の生徒が率先して池 周辺の空き缶やペットボトルを集める清掃を実施する ことで芽生えた団結力は、「農援隊」という新たな活動 に発展した。集めた落ち葉から腐葉土を作る「ミミズ コンポスト」を始め、地元商店街や行政と協働で芝桜 の植樹を行ったり、池をキレイにしようと空きペット ボトル容器を利用して、空芯菜の栽培に取り組んだり している。また、同校の自然科学部では、環境の指標 となるホタルを洗足池に復活させるプロジェクトを3 年前に設立。農援隊と協力しながら池の環境改善に努 めた結果、毎年ホタルの飛翔数が増え、住民からは学 校に感謝の声が寄せられている。そうした美化活動を 通して学校全体も明るくなり、生徒たちの学力が大幅 に向上した。地域のために行ったことが生徒の自信や 誇りにつながり、着実に自己肯定感が育まれている。







東京都大田区立大森第六中学校のみなさん

「平成22年から大田区の研究推進校に選ばれたのを機に スタートした取り組みで、毎日仲間と活動してきたことが 評価され誇りに思う。後輩にホタルの放流活動を継続して もらい、ホタルが自生するまで続けていってほしい」



東京都大田区教育委員会 統括指導主事 増田 亮様

「同校の栄誉ある受賞を聞いて、地域住民は大変喜び誇りに思っている。豊かな自然が残る洗足池周辺で環境美化活動が行われている取り組みだが、この受賞を機に、「地域とともにいいまちをつくろう」という想いを掲げて大田区全体に広げていきたい」

地域に根差した水環境学習で水質日本一を取り戻す!

環境大臣賞 福島県 猪苗代町立翁島小学校





同校の南側に広がる猪苗代湖はかつて水質日本一を 誇っていたが、生活排水やゴミなどにより水質が悪化 し、近年ランク外に転落した。それを機に、水環境改 善活動が平成13年からスタート。全校を挙げて取り組 んでいる「湖岸クリーン作戦」では、空き缶や日用品 が点々と捨てられている現状に驚きながらも、地域の 専門家に助言を得て、児童たちがまずできることから 取り組むことを決めた。そのひとつが、水質を悪化さ せるヨシ・ヒシ刈りと、水質を浄化させるアサザの栽 培・移植活動。今では、アサザの面積は4万平方メー トルを超え、湖岸からも確認できるまでに広がってい る。昨年からは、刈り取ったヒシ・ヨシを堆肥化し、 畑で野菜を栽培収穫する資源循環の輪へと発展。学ん だ成果は、児童が地域の行事で発表し、住民や他校に 環境美化の協力を呼びかけている。"かつて水質日本一 だった美しい湖を取り戻す!"奪回に向けた児童たちの 熱心な取り組みが続く。

福島県猪苗代町立翁島小学校のみなさん

「地元だけではなく国からも認められ、全国に我々の取り組みが発信されるのが嬉しい。水環境をよくしたいという願いで活動しているが、将来に向け環境に貢献できるような子どもたちを育てていくうえでも励みになる賞をいただけたと思う」



福島県や地域関係者のみなさんおよび福島地方連絡会議員 大塚製薬社 郡山出張所 越野 真彦様 (写真左)

「福島県のシンボルである猪苗代湖の水環境をよくしようと、 児童たちが地道に取り組んでいる素晴らしい取り組み。我々と しては、この活動を福島内外の子供たちにも伝えていきなが ら、もっと広がるように少しでもサポートしていきたい」



水俣方式のゴミ分別や生徒発案の環境検定で環境意識向上

協会会長賞 熊本県 水俣市立水俣第二中学校

公害の原点といわれた水俣病の経験を教訓とし て、世界の環境首都を目指す水俣市では、市内の全 小中学校で環境美化に対する意識が高い。その中で も、「環境二中」として知られる同校では、他校の 模範となる先駆的活動が行われている。その代表例 が、平成8年から続くゴミの分別収集活動。行政区単 位で月1回実施される24種類のゴミ分別収集日に、生 徒のほぼ全員が放課後、部活動より優先して地域住 民とともに資源物の分別収集に取り組む活動だ。今 では、お年寄りのゴミ出しを生徒が率先して手伝う など、住民との絆も深まっている。さらに、平成16 年度から実施している水俣二中独自の「校内環境検 定」は、環境委員会の生徒が考案した環境に関する 知識や行動を問う検定試験で、高得点者は「環境名 人」の称号が贈られる。また、今年からは「環境だ より」を地域に配布するなど、生徒が主体的に継続 して環境美化を広めようという意識がしっかりと根 付いている。







熊本県水俣市立水俣第二中学校のみなさん

「いままでの努力が評価されて、熊本だけではなく全国 的に認められたのを嬉しく思う。これを機に、地域に紹介 したり他校との交流を深めたりしながら我々の活動を発信 していき、日本全体が環境への意識が高まるきっかけに なったらと思う」



熊本県関係者および熊本県地方連絡会議員 南九州コカ・コーラボトリング社 河野 修二様 (写真左)

「環境首都水俣は環境活動が盛んだが、その中でも水俣第二中学校は、地域の旗印となって先導して環境美化を実践しており、その生徒の取り組みが高く評価されたことを光栄に思う。今後も県と学校のパイプ役となって美化活動の取り組みを支えていきたい」

第13回 環境美化教育優良校等表彰 表彰校一覧

最優秀校

■ 文部科学大臣賞 広島県 福山市立今津小学校

■ 農林水産大臣賞 東京都 大田区立大森第六中学校

いなわしろ おきなしま 猪苗代町立翁島小学校 ■ 環境大臣賞 福島県

■ 協会会長賞 熊本県 水俣市立水俣第二中学校



優秀校 (6校)

ねあがり 平川市立葛川小学校·葛川中学校 能美市立根上中学校 青森県 石川県

宇和島市立成妙小学校 山形県 尾花沢市立尾花沢小学校 愛媛県

新潟市立女池小学校 新潟県 宮崎市立宮崎小学校 宮崎県

優良校 (31校)

長野県

ひがし

長野市立広徳中学校

かものみや

みなみひづさ 日野町立南比都佐小学校 かるまい こがるまい 軽米町立小軽米小学校 岩手県 滋賀県 まいづる 舞鶴市立青葉中学校 横手市立山内小学校

秋田県 京都府

守谷市立愛宕中学校 茨城県 大阪府 大阪府立堺支援学校

篠山市立畑小学校 日光市立安良沢小学校 栃木県 兵庫県

沼田市立多那中学校 群馬県 奈良県 曾爾村立曾爾小学校

田辺市立龍神中学校 埼玉県 さいたま市立春野小学校 和歌山県

芝山町立東小学校 千葉県 島根県 開星中学·高等学校

小田原市立鴨宮中学校 神奈川県 総社市立昭和中学校 岡山県

さんようおのだ おしはら 山陽小野田市立津布田小学校 山梨県 昭和町立押原中学校

山口県

徳島県

きょうでん

魚津市立経田小学校 添田町立落合小学校 富山県 福岡県

まかい 坂井市立三国南小学校 佐賀市立北山中学校・小学校 福井県 佐賀県

たるい ふ わ 垂井町立不破中学校 長崎県 岐阜県

ぶんごたかだ 豊後高田市立都甲小学校 ぬまづ かいほく 沼津市立開北小学校 静岡県 大分県

鹿児島市立伊敷中学校 愛知県 岩倉市立岩倉東小学校 鹿児島県

> * は いしみね 那覇市立石嶺中学校 沖縄県

徳島市津田小学校

■ 優秀校・優良校の表彰状等授与式の開催

第13回環境美化教育優良校等表彰事業において、全国の小・中学校の中から優秀校、優良校に 選出された学校を表彰する授与式が各都道府県で開催されました。授与式は、受賞校の校長室や体 育館、県庁及び市役所、公共施設などの会場で、学校関係者を始め、行政、地方連絡会議(当協会 の会員団体に参加する各地の飲料企業)、報道機関の出席のもとで、和やかに行われました。その 様子と受賞校の活動内容を一部紹介いたします。

【優秀校】受賞校6校のうち2校を抜粋紹介

石川県 能美市立根上中学校

マツクイムシの被害を受けた根上海岸の松林再生に向けて、平成13年から生徒と保護者が海岸の清掃美化に取り組んでいる。中でも、生徒会とPTAが共同企画して実施する「海岸清掃ボランティア」は、年ごとに人数が増加。主に海岸に散乱しているゴミの分別回収を行う活動だが、現在は数



百人単位が参加する一大プロジェクトに発展。この取り組みが地域にも広まり、松原の再生の植林や松葉の堆肥づくり、松露の育成、さらには高速道路消音壁のふるさと壁画作成など、生徒と地域が連携して多彩な環境美化活動を行っている。

「地元の森林組合や地域住民にご指導いただきながら長年継続してきた活動が認められてうれしい。植林 する松は、根が横に広がらずまっすぐに伸びる苗を使用、災害に強い松林をつくっています」

<授与式の出席者> ・能美市立根上中学校のみなさん

・北陸地方連絡会議 岡田 裕之氏、 木山 孝夫氏(北陸コカ・コーラボトリング株式会社)



宮崎県 宮崎市立宮崎小学校

30年以上にわたり校区内や地域の公共の場などで清掃活動を行っている同校。全校児童が参加して年2回実施する校区内の公園や通学路の美化活動「クリーン作戦」を始め、6学年児童による毎朝の始業前30分間の落ち葉掃きやゴミ回収のボランティア活動「朝ボラ」など、学校の伝統的な取り

組みとして地域から高い評価を得ている。児童が通学路の清掃活動に取り組む際は、住民に安全見守りボランティアを依頼するなど、校外活動の安全確保を支援してもらっており、環境美化を通して児童と地域との交流が深まっている。

「創立140年を迎える歴史と伝統のある学校です。地域に根差した学校として30年以上続けている活動が評価されたのも、先輩たちをはじめ、住民など多くの人たちの支えがあってこそだと思います」

<授与式の出席者> ・宮崎市立宮崎小学校のみなさん

·宮崎県環境森林課 河野 博俊氏 ·宮崎地方連絡会議 坂元 康一氏(大塚製薬株式会社)

【優良校】受賞校31校のうち4校を抜粋紹介

かものみや

神奈川県 小田原市立鴨宮中学校

支援学級の活動の一環として20年前から取り組んでいるアルミ 缶回収。現在は生徒会が中心となって毎月1週間の回収期間を設け て実施し、校門付近に回収ボックスを設置したり、生徒が地域に回 収に出向いたりして、空き缶の散乱防止に貢献している。



「授与式では報道各社より取材を受けました。生徒は緊張した様子で受け答えしていましたが、自分たちの活動をしっかりアピールしており、とてもいい経験ができました。受賞は、生徒たちの励みになります」

<授与式の出席者> ・小田原市立鴨宮中学校のみなさん

・神奈川地方連絡会議 高橋 利光氏(コカ・コーラ セントラル ジャパン株式会社)



愛知県 岩倉市立岩倉東小学校

昭和41年の開校以来、「花いっぱい運動」に取り組み、学校花壇や幼稚園花壇、地域花壇などで植物を育てている。水やりや草取り、図案づくりなど地域の協力を得ながら実施。平成8年からは、給食の残さの堆肥化にもチャレンジし、リサイクルしようという気持ちが高まっている。

「この賞を励みに、これからも給食の残さ処理やそれを活用した『花いっぱい運動』にしっかりと取り組んでいこうと思いますと、代表児童からは喜びと決意の言葉がありました」

<授与式の出席者> ・岩倉市立岩倉東小学校のみなさん

・愛知地方連絡会議 佐藤 正司氏(サントリービア&スピリッツ株式会社)、 野田 徳隆氏(カゴメ株式会社) 西川 眞理子氏(ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社)

大分県 豊後高田市立都甲小学校

学校と地域住民の連携の下、21年間にわたりアルミ缶回収を行っている。毎週水曜日に、児童の家庭や通学路に落ちているアルミ缶を回収・持参し、地域住民も学校に届けるなど協力体制が敷かれている。その収益金で車イスなどの福祉機器を福祉協議会に贈呈。



「この4月から校舎を移転して、近くの中学校と同じ敷地内に小中一貫校として再スタートをきる予定です。現在の校舎としては最後の表彰ということで、いい記念になりました」

<授与式の出席者> ・豊後高田市立都甲小学校のみなさん

・大分地方連絡会議 関川 正博氏(アサヒビール株式会社)、 高野 敏行氏(大塚製薬株式会社)



鹿児島県 鹿児島市立伊敷中学校

校区を流れる「甲突川」の清掃美化活動に年2回取り組む同校。河川敷などでポイ捨てされた空き缶などを回収しながら、「甲突川クリーン作戦」を大テーマに、水質や川に棲む生物など郷土の自然や環境問題に結び付けて追及学習を行うことで生徒の郷土愛を育んでいる。

「報道陣に囲まれて少々戸惑い気味でしたが、活動の中心となった代表生徒が受賞の喜びや取り組み概要を語っていました」

<授与式の出席者> ・鹿児島市立伊敷中学校のみなさん

・鹿児島地方連絡会議 高橋 俊文氏(キリンビールマーケティング株式会社)

学校における環境学習の教材の一部として活用が出来ます。



「まちの美化」と「リサイクル」をテーマにした小学生用のサイトがあります!



【サイトのご紹介】

「まち美化キッズ」は、食品容器環境美化協会が小学校高学年を対象に制作した学習Webサイトです。児童たちの身の回りにある飲料容器「びん、かん、ペットボトル」を通して、環境美化・リサイクルの大切さや仕組みを「まち美化ってなあに?」「ポイすてストップってなあに?」「調べ学習コーナー」等、楽しく学べる構成となっています。



まち美化ってなあに?



ポイすてストップってなあに?



ホームページは こちらから

まち美化キッズ

検索。

http://www.kankyobika.or.jp/kids

